

May:lish

#2



「く……っ…来るな…来るな…っ!!」

灼熱の息を軽く洩らし重む頭は
笑っているようにも思える。
折れた刀にすがり恐怖にすくむ
涼しい姫騎士を映すその目には、
あからさまな獣欲の色が揺らめいていた…

「い……いや……っ…来ないで……っ…来ないでえええええええ!!!」

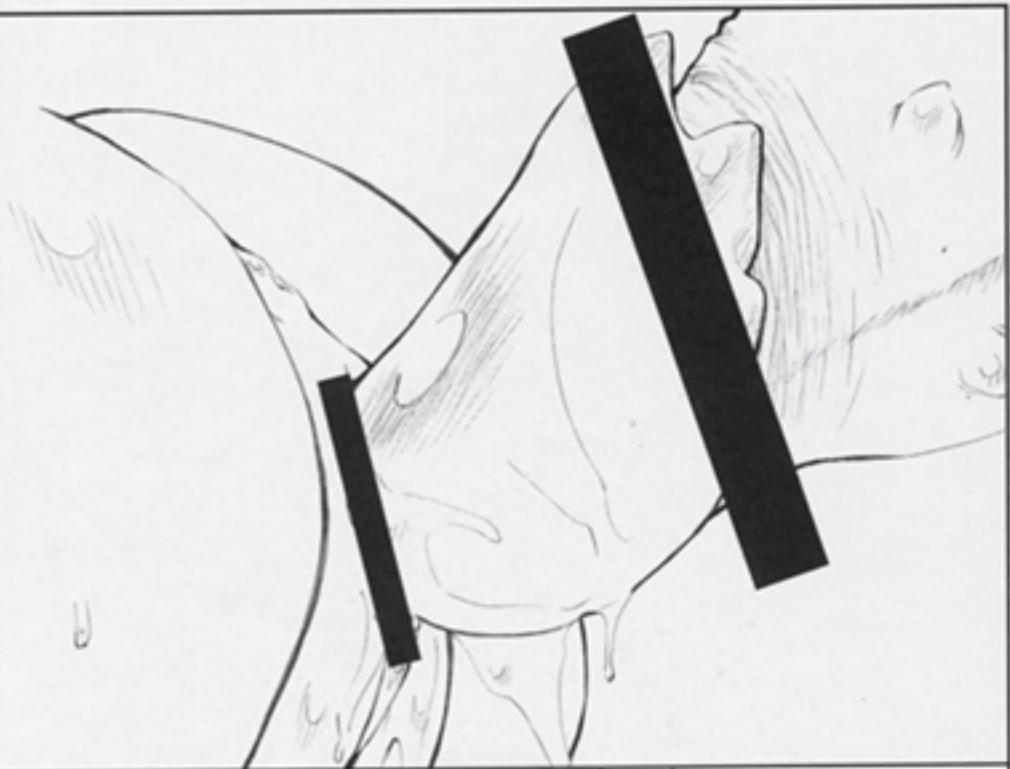
「なんで…龍族が…っ…こんな…っ…なんで…っ!!」

イスマス侯長子・ローザリア舊機騎士ティアナ。
弟を守り騎士として散る。
…その覚悟をして火龍に立ち向かった筈だった…
が、火龍は姫騎士が想像も
しなかった行動を見せる。



「いやっ!! 嫌…そんな…ッは…入るわけが…ッ!!!」

大人の男の腕ほどもある
火龍のペニスを押し当てられる。
とくとくと溢れ続ける先走りのぬるついた汁で、
びつちりと閉じた処女の秘裂を
汚されディアナは怯えた…



「い…やあ…っ!!!」

必死に体を揺すり、返しの付いた
凶悪なシルエットの
陰茎から逃れようとするが、
頭をがっちり掴まれ柔らかな巨大な腹に
のしかかれては成す術はなかった…

「お…ッ!!! お…ッ!!! おくおおお…ッッッ!!!」

みちみちと括約筋を限界まで延ばし
亀頭が処女の狭い隙間に埋没していく。
その激しい痛みが破瓜の所為なのかすら
姫騎士には分からなかった…



「あがつー！あーッ！あーッ！あーッ！あーッ！あーッ！！」
火籠の巨大な腕に脚を掴み上げられ、
まるで玩具の様には体を揺らされ続ける。
処女孔を限界以上に
押し広げられる感覚を受け続け、
痛みを痛みとして認識する事すら
出来ない程に意識は混濁していく……





「いやっ」

あ……あああああああああああああああああああ……！！

火龍がひとつ低く唸り、
その凶悪な肉塊で胎内を
奥の奥まで突き上げた瞬間、
姫騎士の子宮を灼熱の精液が
押し上げられる程の勢いで叩き始めた。

「う……いお……ッ……あ……おっ……おっお……う……！！」

内臓を潰れかねないほどに押し上げられ
火龍の体内で熱く濡く練られた
子種汁で子袋を満たされ、
意味を成さない声だけがディアナの喉から漏れる……



「…」
最早うめき声すら上げなくなつた
姫騎士の体を人形の様に火龍は囲み上げる。
拡張されきつた処女孔からは子宮が膨れ上がるまでに
注ぎこまれた火龍の子種汁が、
こぼこぼと吐き出し続けられていた…



半年の後……姫騎士は
火龍の子を胎内に宿していた……
元來人と龍の混血は極めて稀であるが、
このイスマス侯の長子には
特別な資質が備わっていたらしい。
とはいえやはり妊娠が
困難であることには変わりはない。
その子宮が龍の子を孕むまで
延々と繰り返された隣辱で、
完全に姫騎士の自我は失われていた。
凍とした面影ももうその
残った顔には残っていない。
子を孕み二回りも
大きくなった乳房をぶら下げ、
獣の様に振舞うその姿は
雌牛以外の何物でもなかった……

ガマン学園のイコイコ



んっっんっんっんっ

んっんっん

んっん

んっんっんっんっんっん
んっんっんっんっんっん



(…勝手に忍者
学校来ちゃっけと…
ま、まさかこんち…っ
「んっっんっ！？」
「し、忍ちゃんもにえ！？
「カ、ぶあえへぶあえっ！？」

「撫さん...♡
舌渡刃の硬くてあっきなあちんちん...
あまんこにくわえてころして
腫くいっくいてすると
どーっても気持ち良いんですよ♡
「あー良いぞシブ...
腹内も良く締まるようになったな
「う、忍ちゃん...っ?」



「そ、それに…♡ころやっ…♡
思っけり出し入れして…♡
子宮を突いて暮らさる
頭が轟っ白になっちゃんてす…♡
「おおおシノブっ出るぞ…腹内で射精すぞ…
「来て…♡舌速又腹内で射精してええっ♡
「あ…あ…♡
（…いつもの…忍ちゃんじゃあないっ♡



「サスケさん達までっ
こんなことしていい筈無いわよっ
「して」良い・悪い、ひゃあくって…
忍ちゃんほしなまき、なら無いんてす
それガくのいちもんですよ、お嬢さん
「そ、そんな…
「すみませんお嬢さん
でもこの修行を見てしまった貴方が悪いんてすよ
「え…な、お忍ぎ…?
「これも忍の掟てすっ!
「あ…い、いやああああああああっ!!!

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

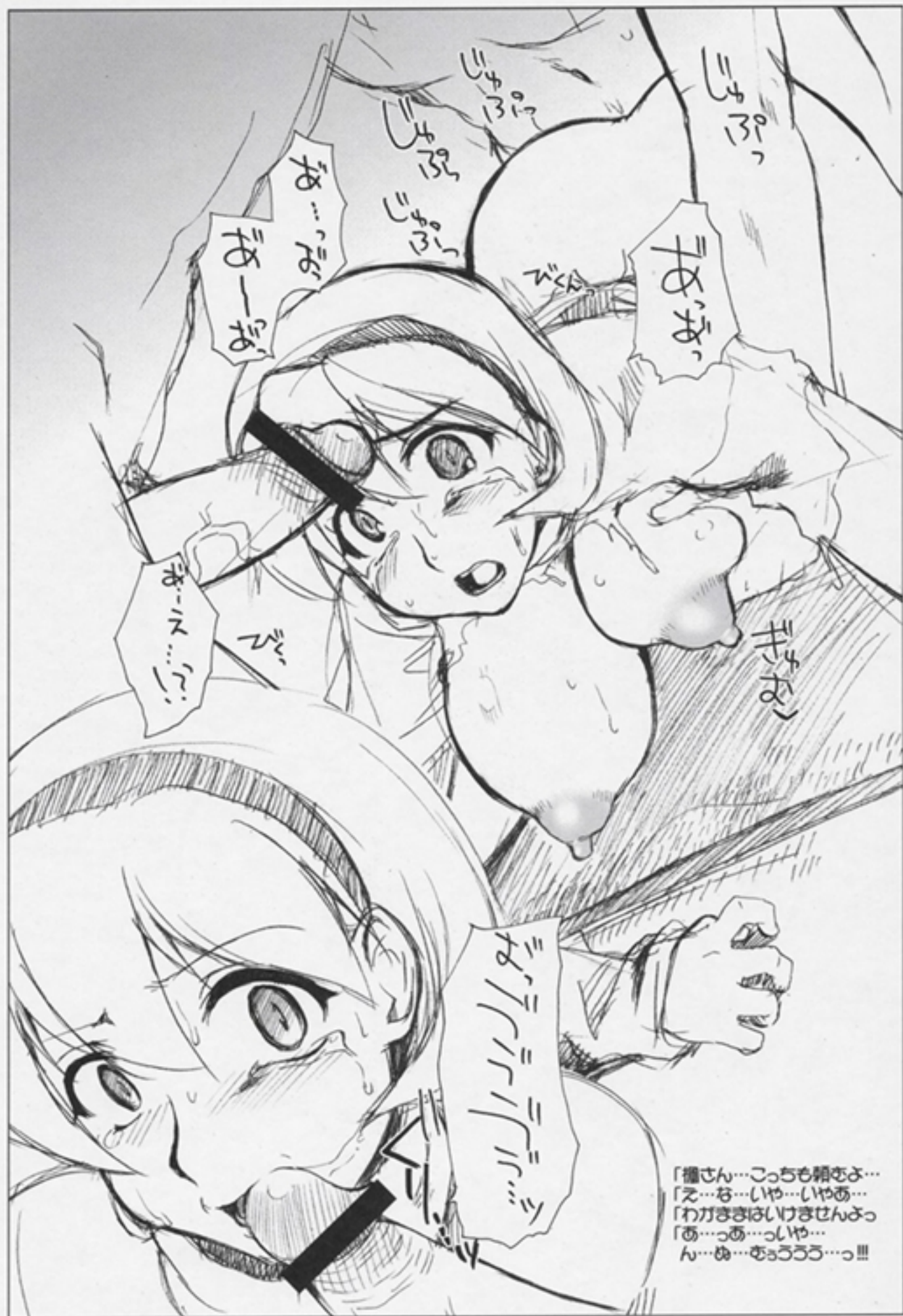
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ





「ん…んんっ…ぶく…っんっ
「ああ…撫さんの腹内すっごく締まって
気持ち良いですよ
「んんっ
「口もカカカいいよ
「んく…んっんっん



「だ、駄目だ…欄さん
腹内て出しますよ…っ
「ん!? んっほめへ…っ!!!
「あ、ああっ僕ももう駄目だ…っ
「ひや…ひやひや
ひやあああああああっ!!!





アッ...アッ...
アッ...アッ...
アッ...アッ...

アッ...アッ...

アッ...アッ...

アッ...アッ...

「あ...は...あ...
「...誰さんには酷い事しちゃったなあ...
「ても忍の疔は絶対だから...仕方か...
「あ...あ...
「.....これからどうなるんだっけ？
「.....「処分」するが、
「草」として使えるようになるまで調教するが、
どちらかしか許されてないよ.....
「.....そう.....

END



こちらは
「爆乳晶姫御前」
から。

無数の触手に
絡め取られ悶られるエルス。
爆乳の先で勃起する
乳首をねちねちとなぶられ、
喉の奥まで挿入され、
はねる魚の様な激しい動きで
膣内を犯されつくし…

触手でいきつばなしになるエルス。
結局約30分後
ナオに助けられるまで、
21回イっちゃったとか。

爆乳戰士 凌辱記



71 触手にレイプされる

『く…来るなっ！ 嫌だ…ッ！
くっ、来るなあああっ！』

リステイが新たな拠点にと選んだ洞穴、
そこは魔物の果食う古代遺跡だった…。
部下はもう既に喰われ、リステイは襲い来る
触手達に為す術なく犯される事に…

『や…っ！
いつ、イヤアアアアアアッ！』



『やあ…っ！ な…なにッするつもりだよお…っ？』

リステイの豊富な乳房に、漏斗状の触手が吸い付く、半透明のそれの中では無数の細い触手が蠢き、

リステイのいきり物った乳首を凌辱する…。

くすぐり、さすり、しごき、捻り、絞り、吸引し…

ありとあらゆる責めを加えられ、

出る筈のない母乳を搾り取られながら

物起しきった乳首で休む暇もなく絶頂させられ続ける…。

『うあっ！ ああッ！ ああああああああッ！』



75 穴という穴を犯され尽くす

「ん
ツーンふおおッ！」

触手達の性欲(?)は止まる所を知らず、
リスティの犯す事の出来る所に全て侵入してくる。
敏感な膣内や腸内を触手で限界まで広げ、擦り上げられ、
顎が外れそうになるほど太いモノで喉を突かれ、
本来ならば針ほどのモノしか入らない筈の
乳腺を拡張され母乳を搾りながら犯され、
気が狂うほどの快感に、リスティは頭のどこかで
何かが焼き切れていくような気がした…



「あ……ああ……っ
あああ……うあ……ああ……っ!

最早どれ程の間犯され続けたかリステイには分からなかった。
分かるのはただ自らの身体が以前とは全く別の何かに
作り変えられてしまったことだけ……

妊娠してもいないのに……

……今はもう何か孕んでいるかもしれないが……
出る筈のない母乳を垂れ流す豊かな乳肉

その先っぽで痙攣してるのかと思われる位、
ばんばんに勃起しきった乳首。

そこから噴射される母乳の感覚で、
絶え間なく絶頂を迎え続ける……



79 開脚状態で拘束される



『…くっ！な…っ何を…っ！』

一帯を荒しまわっていた山賊討伐に出たレイナ。だが不意を突かれ敗北…。腕を高く掲げ脚を不恰好に開いた姿で拘束され…

『ふはははっ！いい姿だぜねえちゃん…！』

『あつ！あかああああああああつ！
『おいおいなんだよ処女かコイツ！
こんな男好きしそうな体を
今まで置いておいたあ勿体無いなあ！
開脚し拘束されたまま
後ろから犯されるレイナ。
今まで守ってきた純潔を
軽蔑すべき連中に散らされ、
泣き叫びたくなる程の屈辱と
苦痛を必死でこらえる…』



83 輪姦で快樂漬けになる

『あつ！あつ！
な…なんで…なんで私…っ！
『おいおいコイツマワされて感じてやがる！
ついさっきまで処女だった癖になんて淫乱だよ！
連続でハメられ続ける膣内、
揉みしだかれ肉棒を突き立てられる乳肉、
息苦しくなるほど大きなモノを頬張らされる口…』


混乱の中快樂に目覚めていく体に、
戸感いを隠せないレイナ…
だがその戸感いすら更なる
快樂に導いていく…

「お…ああ…あうあ…ああ…つ
「へへ…良かったぜ…
これからも精液便所として飼ってやるから
有難く思えよ…っ!

数え切れない程膣内射精され、
快楽で頭を真っ白にされ…
ただ荒い息をすることしか出来ないレイナ…
この先毎日の様に山賊達に種付けされ、
名も知らぬ男の子を孕まされる事への絶望も、
まだ痺れたままの彼女の思考には上らなかつた…



N.B.
Complex!



たまにはこんな夜を
梓さんとすごして
みたくありませんが。

わ……
どうしちゃったんだろ……
アタシ……
耕一の……学ランの
匂い嗅いで……
こんな気持ちに
なっちゃってるなんて……
へ……変態みたい……

「これってやっぱ『夜這い』
ってヤツ……?♡
こ……こんなのも……
たまには良いよね……?」



「……ふう……まだ勃起してないのに……
耕一の……大っき……♡
雄……の……匂い……クラクラしそう……
改めて見ると……赤黒くって……
ちよっとグロテスクだよね……
映画のエイ○アンとか
こんな感じだったかな……?」

ん……

く……



「…くわえるのにはこんな位が
ちょうど良いんだよね…
日本人の平均は13cm位
って耕一言ってたけど…
耕一ってば勃つてない時から
そんなくらいあるんだもん…

んふ…

んふ

「ほら…口の中でべろべろ
するんだったらびったり…
んふふ…先っぽ
くにくいで可愛い…♡
コレが…あんな凶器みたい
なのになっちゃうなんてさ…
男の人って…不思議だよねえ…

んっ

んふふ

んん…う

ん…

ん

ん

ん

「わ…勃起…して来たア♡
えへへ…さきっぱは
ぶりぶりなのに…
竿はかっちかちで熱い♡
喉の奥までいっぱいで…
息…できない…」

ぬ 30 30 40…

「うあ…おっきい…おっきいよう…
こーいちのおちんちん…
んふふ…♡」

ちゅ

ぽんっ!

「ん……？」
「お、おい何やってんだ梓
「何って……ん……
「ふえらちおん……
「う……な……おい
「ん……れるれるれる……
「ろーひはお？
「いや……梓……こないきなり……
「悪い？……アタシだって……
「すぐくHになる時位
「あるんだもん♡
「なんで……お……裏スジ……おうっ
「借りた……学ラン着てたら……
「なんだか変な気分にな
「なっちゃってさあ……♡



「おいおい……
「男の子の匂い……
「凄……いんだね……
「ウリ……ニシグしてもう何年も
「押し入れの中に入ってたのに
「まだ匂ってくるんだもん……
「で……それで梓お前発情したって訳か
「すっ……かり変態だなお前も……（嘆息
「悪……か……っ……た……ね♡

「ちゅ…ん…ちゅ…」

「ほらほら…♡」

「止め…俺バイト」

「あるんだから寝かせ…」

「だーめ！こーいちだつて先週アタシが朝1限から講義あるって言ってるのに一晩中ケダモノみたいに寝いかかってきたじゃない…」

「うおっ！」

「すん」

「ん…」

「はむ」

「はむ」

「んっ」

「びん」

「んっ」



「す、スマン梓
謝るからちよ…っ!!!
「だあめっ♡
はむ…っ」

「ほんつと耕一のおっきいんだから…さぎっぽくわえるだけで精一杯…」
「でもちようど高いカリに唇が引つかかって…ふふ…耕一すっごく気持ち良さそう…♡」

「今度は…がっちがちに
勃起したおちんちん
アタシのおっぱいで
気持ち良くしたげるよ…♡」

…ふふ…♡

お…おお…

「えへへ…どう…
柔らかいでしょ…♡
「お…おう…びつちり寄せられた
胸に突っ込んでくと
なんか…ま○この中
突っ込んでるみてえ…」

311=

311=

311=4h m →

「ふふ…そだよ…
アタシのおっぱいは…
耕一専用のおっぱい
ま○こなんだよ…♡
…なーんて台詞…
思っても恥ずかしくて
言えないけど…、ねw
…でも…アタシの胸で
耕一が気持ち良く
なってくれるのは
やっぱり凄く嬉しい…♡」

「やっぱ梓の乳すごいよ…
こんだけかいと乳圧が
ちんぽ全体にかかって…」

「にや、乳圧…っ♡
もー変な言葉使ってW
じゃあこんなのは…」



「う…すげ…っ
根元からカリのどこまで
完全に包まれて…」

「耕一ってば…
だらしない顔して…♡
アタシも耕一に
して貰ってる時は
あんな表情してるのかな…？」

んふ…♡

むむ…v

んふ

131=4,

131=4,



は

あ...あま...

あ

あ

あ

「ほ、ほら...もう耕一の先走っちゃってるよっ♡」

「あ...耕一の表情...もう全然余裕無い...っ♡」

「そっかそんなに...♡」

「びくびくおちんちん震えて...あ...精液...根元に集まってるんだア...っ♡」

39に4

うおっ

「うわ...それ...左右交互にやるのは...」

「やっぱりコシが好きなんだ?」
「おお...っこれ...っ」
「カリの擦られ具合が...やばっ」

「おっぱいで擦る度」

「耕一のカリがどんどん高くなってくの判っちゃう...♡」
「それにおちんちん全体がだんだん熱く赤く染まって...」
「こんなん...おま○こ擦られたら...♡」

「うあ...や、やだ...♡」
「パイズリしてるだけで...」
「アタシ...っ?」

あ

あ

う...う...

♡

あ

39に4

んっ

んっ!

こーいちの...

「もーすくこーいちの...
精液が...っ♡
熱くて...濃くて...
とろとろの...っ♡

うあ...駄目...っ♡
アタシ...こーいちの精液...
欲しいよう...っ♡

.....もおトドメ...
刺しちゃうよおっ♡

びんちん
T=39°
びんちん

T=39°

「ちよ...っ梓...っ今先
なめられるとっ!
「うん...っ?んんん?
「う...やべ...っ梓...もうっ
「イっちゃうんだ...っ?
こーいち...っ
「イっちゃうんだっ♡

や...やべっ!
んっ
うんっ
うんっ

「こーいちっ
男の子みたいな顔してる
っていつつもからかっているアタシに
胸だけで簡単に
イカされちゃうんだ...っ♡
さきっぽビクビク震わせて
熱い精液びゆくびゆく
射精しちゃうんだあっ♡

びんちん

びんちん

ん...っ♡



「あ…っああ…っああ…っ♡
射精てるう…っ♡
こーいちのせーえぎ…っ♡

「こんな…どろどろで…熱い…っ♡
こんな…凄い量…っ凄い勢い…っ♡
こーいち…こーいち…っ♡

「いっぱい…射精したね…
こーいち…♡
「お…おう…」

「アタシの胸…どだった？
「そりゃ…搾みたいな堪んない乳でされたら
気持ち良いに決まってるよ…
最近お前マジ上手いしさ…
「ふふ…ありがと…♡

「ね…今度は…こっちにも…♡
「おっおいちよつと待て
マジ寝かせてくれよ搾うわっ
「ん…あ…っ!!
こーいちの…
おっきいいいッ!!♡

「たまには…こんなのも…
良いでしょ？」

今日は寝かせないんだから…っ♡
ね…こーいちっ♡







にゅる...

にゅる...

にゅる...

1話以前の話...
梨穂子とこれからは暮らしたいと
引越し費用を捻出するため
慣れない風俗に身を投じる雅音...

「お客様...いかがですか?」
「あー気持ちいいよ」
「マサムネちゃん、の爆乳...」
「ふふ、今回は気持ち良く...」
「さっさとさね...」

「頑張れ雅音...」
「...」の為...「...」の為なんだから...

『いや本当に凄いです
マサムネちゃんのおっぱい
こんなほかほかののに
しつとり手に吸い付いてくる…』

『あ…有難う御座います…
それに手が沈み込む位
柔らかくて…
いらまとも揉んでいたいね』は

『や…うー！
こんなにねちねちく揉まれてると…
本当に…気持ち良くて…う』

おっぱい
っ

おっぱい

「なっなっ頼むよサムネちゃん
生本番後…十万！十万だからさ
なっ？」

「そんな…生でなんて…
でも…十万も…
それだけあれば…」ほりへは
向いて「ん」に配かける事少
なくて済むよね…
リ」の…あ…う」

「あ…うあああ」

「嫌…う！
この人のおちんちん…
妻く太い…う」

「あーいよいよサムネちゃんの
腔内あつたか…
きつきで最高だ…
直ぐに搾り取られそうだ…う」

『うおしいかん…
てる…てるよちマサムネちゃん！』

『お…お客…さっ
そ…外で…お願いしますっ！』

『うお…おおおおおおおっ！』

『あ…あああああああ
あああああああっ！』

『嫌っいやあああああああっ！
股内で…射精てるっ！』

『ああ…うああああ…う
いや…あああ…』

『はあ…はあ…ごめんね
マサムネちゃん…
でも…妻く良かったよ…』



『ああ…ふあ…あ…』

『結局…4回も…なかに股内射精…』

『酷い…』

『なのに…私…う』

『すつこくよかったよマサムネちゃん…』

『でも驚いたな』

『途中から中だして』

『いきまくりで…』

『ホント可愛かったよ…』

『ああ…あああ…』

『いや…なんで…いやあああ…』

『また来るからよろしくね…』

『ふあ…ああああ…』



爆乳 白 白 姫 御 前。



あれから2年余りの年月が経ち、
今や品くんも巧海と共に風築学園高等部。
今日も制服をはだけてすっかり成長した
いやらしい体を巧海の前に晒します…

「…なんだよその顔は…とーせあれだろ

「相変わらず女装みたいだなー」

とか思ってたろくそ…っ！

「そっそんな事無いよ品くんっ！

凄く似合ってる…可愛いよ品くん…」

「…ば…バカっほめてもなにもでねーからな…っ？！

「あおもお貞顔でそんな事言っな照れるっ!!!

……………まあその……………嬉しいけどさ…

「本当におっきくなったね品くん…

「んあ…た…巧海の手つき…やらしすぎた…っ

「張りがあるのに…

「こんなに大きくなって柔らかくて…

「…お…お姉ちゃんよりも…おっきいかも…

「バカっ！こんな時くらい

「姉ちゃんの事言うの止めとけよっ！

「（こんのシスコンおっぱい星人があああ!!!

「お前がどーも胸でっかい方が

「好きみたいって分かってから

「こっちはお前の爆乳姉ちゃんに

「負けないように

「すっげー必死だったんだぞ！

「毎日牛乳2リットル飲んだり

「ウチの屋敷にあった怪しげな

「豊乳丸飲んでみたっ！

「こ…こめんね品くん…

「あ…ん…っばか…

「胸もみながら言ったって…んあ…っ

「胸もみながら言ったって…んあ…っ



「ほら…晶くんの乳首
びんびんに勃起してるよ…
」や…詰め…んあああ…
「晶くんも…いっしょに…
」うあ…そ…そんなの…
「きど…気持ち…良いや…
」た…巧海が…どうしてきつて言うなら…
し…してやっても…いっせ…
ん…れる…」

「ふひあ…これ…凄…
キスしながら…
オレ達の口の間で乳首いじめられ…
」ふふ…晶くん夢中だね…
乳首もまだ勃起してきてるよ…
「や…言うな言うなあつ乳首…こんな…
限界まで…ピンク色になっちゃってる…」



「じゅるるうううう…
「あああああ吸われてっ…
乳首っ乳首吸われて凄…
うあ…す…吸いながら…
れるれるするなんて…っ！
巧海…ダメそれ…
ダメだあああっ」

「うわあ…乳首だけで…もうめるめるだね」
「おっお前なァッ！」

「んなコトいちいち言わなくていいっ…」
「でも本当だし…」

「ね？ほらお尻までお汁でとろとろだよ？」
「わざとだなっわざとだわざとだろ巧海！」

「……ふあっ!?うわあッた巧海の…当たってっ！」
「おちんちんで触っても分かるよ…」

「晶くんのとろとろのおまんこ」
「だからもう…」

「もう言うなああッあふああああああああッ」
「きたっ…きたああッ！」

「巧海のおちんちん…」
「おっきなの…来たよお……っ！」

「あ…ああああ…」

「晶くん…腹内…やっぱりとろとろだよ…」
「あうううう…もお…」

「嫌い…だっ嫌いだ…お前…っ」
「でも…意地悪言う度に…」

「晶くんの…きゅんって締まって来るよ…」
「ううううううう…」

「巧海…いっつも泣きたくなる位だよ」
「こんな時はっか意地悪で…」

「すりいよおおおおっ!!!」





「あんっあんっあんっ
あんっあんっあんっ
あんっあんっあんっ」

「晶くん…っ晶くん…っ」

「巧海…たくみいっ」

「晶くんの…おっぱい凄いや…
ぶるんぶるんって…凄く揺れてる…っ！

「やああっ恥ず…」

「みっ見るな見るなあっっんあっっ」

「でも…こんなの…見ないなんて…
無理…無理だよ晶くん…っ！

「うあああ…たっ巧海の…
目…ぎらぎらして…巧海の癖に…
おちんちんも…硬くなってるのが
わかっちまうよおっ！
あの巧海が興奮してる…
すっごくえっちなっちまってるっ！
胸…必死でおっきくして…
良かった…っ良かったああ」

「ばかっばかやろお見るなっ
見ちゃ…っダメだあ…っああん」

「や…なんか…っ
こんな目で見られてると…っ
もお…イっちまいそおっ」

「たく…みつダメダメだっ
オレ…オレ…もう…っ」
「晶くん…駄目だよ…っ」
「もっ…もっ…」
「気持ちよくなって…っ」
「晶くんっ」
「ゆるしてゆるしてっ」
「お…おかしく…な…」
「あひあっ」
「晶くん…晶くん…っ」

「ダメ…だっ」
「イ…イ…イ…」
「あ…っ…あ…っ…あ…っ」
「あ…っ」
「ふあああああああっ!!!」

「うあ…凄…っ」
「中がぎゅんぎゅん…っ」
「あ…晶くん…っ」

「うあ腹内で…っ」
「腹内で射精てるうううっ」
「奥…精液っ」
「精液子宮叩いてる…っ」

「あ…っ?! あ…っ」
「ああああああああっ」

「ああああああああっ」
「オレ…っオレっ」
「腹内射精されて」
「またっまたっイ…っ」
「イ…っ…っ」
「凄…っ…っ…っ」



「あう…うう…ふああ……………」

「また…こんな連続で…」

「何度も…イっちゃまったあ…ああ…」

「…うう…恥ずかしい…オレが…」

「えっちなのかなあ…それとも…」

「巧海が上手過ぎなのかなあ…」

「晶くん…そ…そんな…」

「腰持ち上げたままで…」

「膣内が精液でたふたふたの

見えちゃうよ…？」

「らっ…らっ…」

「こし…おとしたら…」

「せーえぎ…」

「こぼれちゃうもん…」

「オレってば…こんな…」

「えっちな事言ってる…」

「でも…こんなイカされたら…」

「仕方…ない…よ…」

「…勿体無いって…？」

「…ん…こーんないっぱい…」

「巧海の…せーえぎ…」

「一滴だつて…」

「こぼしてやんねーからな…へへ…」

「あ…晶くん…」

「晶くん…ちゅ…」

「あ…巧海…」

「うああ…イった後の巧海のキス…

「さいごお…」

「…大好き…大好きだよ…巧海…」



N.B.
Complex!

後書

えー

さていかがだったでしょうか？
今回は2004年から2006年にかけてのコピー誌総集編、
…ただし間に天からフォルテシリーズ挟んでいたのも
それ以外分ですが…となりました。
見開き・偶数頁奇数頁配置の関係で4頁ほど空き頁を挟みつつも
本文128頁と今まで初の分量となりました。

もう三年以上も前の含んでる上、
コピー誌は大概切羽詰まった状況で作るので
下描き見直しの時間がとれなかったりと
結構見直すのが辛いのもありますが…気にしないことにします。
今流行の鈍感力ですよ、うん。
まあそれ以上に問題なのは進歩してなさっぷりな気もしますが…
…………気にしない気にしない…鈍感力鈍感力…

えー

そして今回も驚異のふたなり含有率約60%！
当社比…自体は前の天からフォルテが
ほぼ100%だっただけに当社比0.6倍ですが、
相変わらずコピー誌は非常にふたなり率が高くなっておりまして、
苦手な方はゴメンナサイっす。

一応そういう点もありまして、
編集の順番を時系列順や作品別ではなく、
エロシチュ別にしてみました。
前半70頁まではめふたなりっ娘ゾーン、
中盤100頁までが陵辱輪姦ゾーン、
後半128頁までがらぶらぶエロゾーンという感じであります。
ふたなり駄目な人は70頁くらいで折り目付けておけば
うっかり開く可能性もなくなるかもしれません。
…相変わらず脈絡のない趣味していて済みません…

ということで今回はこれにて。
今後とも沙悟荘をよろしくお願いします。

-奥付-

誌名: 「N.B.Complex!」
発行日: 2007年04月30日
発行者: 沙悟荘
瀬浦沙悟

発行者連絡先:
E-mail: ser@fx.sakura.ne.jp
HPURL: <http://www.fx.sakura.ne.jp/~ser/>

N.B.
Complex!

N.B. Complex!

Selected rough illustrations of
Seura Isago.
2004-2006.

PRESENTED BY



SAGO-JOU